

生徒指導研修 演題『発達障害と愛着障害の理解と支援』

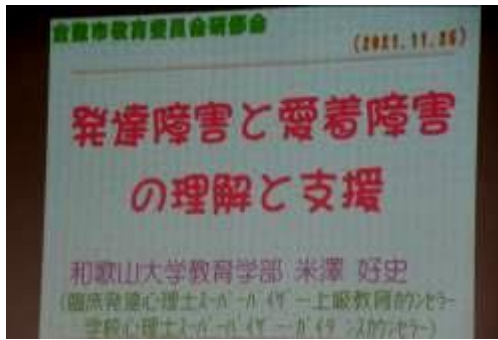
和歌山大学教育学部 教授 ^{よねざわ}米澤 ^{よしひみ}好史 先生



【米澤 好史 先生の御紹介】

京都大学大学院文学研究科修士課程修了
和歌山大学教育学部助手、同専任講師、助教諭を経て、2004年から教授

子育て・保育所・幼稚園・小学校・学童保育・中学校・高等学校・特別支援学校・専門学校、福祉施設、医療施設等の保育・教育・福祉の現場に出向き、直接子どもを観察した上で、見立てとその支援の実践、または、アドバイスを行う実践的研究に従事している。愛着障害と発達障害を峻別して、愛着の問題を抱えた子どもへの支援、愛着障害への対応、愛着障害への支援、攻撃行動への支援に特色がある。特に、愛着修復は、保育、教育の現場で、「いつでも」「誰にでも」できる視点から、愛着形成・修復の支援の可能性を訴えている。また、愛着の問題を抱える子どもへの学習支援、クラスづくり、保護者支援、愛着の問題の視点からのいじめや不登校対策への支援にも力を入れている。



11月25日(木) ライフパーク倉敷大ホールで、講師の先生とオンラインでつなぎ、集合形態で開催しました。会場には市内小中学校の生徒指導主事等130名の方々に受講いただきました。

愛着形成のための「安全基地」「安心基地」「探索基地」という3つの基地機能をもとに、発達障害との違いについて、より一層理解が深まりました。また、子どもたちのさまざまな行動の事例を挙げていただき、意味を説明していただいたことで、よりよい支援の方向性を探ることもできました。

《受講者の感想》

• これまで行っていた真正面からのアプローチで、その時は理解したかのように見えても、状況が改善されていなかったのは、この時のアプローチの仕方に問題があったのだと気付かされました。米澤先生がおっしゃったように、先手の対応で、何かを一緒に行えば、その子どもとの関係がよい方向に向かいそうな気がしてうれしくなりました。

• 問題行動や攻撃性のある行為に対して、「どうしてしてしまったの?」「どんな気持ちだったの?」という質問は、エスカレートさせ、問題行動を助長させることは目からうろこでした。しっかりと理解して関わっていくことの大切さを改めて感じました。

• 先生のお話の中で「キーパーソンを決める」ということが印象に残りました。このキーパーソンになるのは、担任なのか、担任以外なのか、先生方の力量や校内の事情を考えて決定していくことが、チームとして対応していくことのスタートになるのかなと感じました。

• 愛着障害という言葉は知っていても、定義や発見のチェックポイントなどは新しく知る内容ばかりでした。ADHD、ASDなどの違いもお聞きすることができました。間違った見立てや支援をしてしまうと、なかなか改善が見られないことも分かりました。



研修風景



子どもの発達を考える会



11月16日(火)～11月22日(月)

星槎大学大学院 教授 阿部利彦 先生による研修会を実施いたしました。長年、発達障害がある子とその家族の相談支援に携わり、その豊富な経験から全国各地で多数の講演会や研修会の講師を務められている先生です。感染症の影響により、資料と動画による研修会となりました。視聴期間を1週間に限定しましたが、多くの方に御参加いただきました。



(受講者の感想から)

- 子ども達の困りごとや気持ちを改めて感じて涙が出ました。親として支えること、改めることがたくさんあると学びました。また、理解してくださっている先生方がおられることに感謝いたします。(保護者)
- 保護者として、希望者のみでなく学校の先生方に一度は見てほしい内容だと思いました。声かけひとつで子どもたちは追い詰められもするし救われもします。見通しのつきやすい話し方や見やすい板書など多くの先生に浸透して、少しでも子どもたちの学校生活が楽しいものになればいいなと思います。(保護者)
- 見方を変えるとともに、その子に合った段階的な応援スキルを見直していきたいと思います。それぞれの子どもたちにそれぞれの気持ちやつまずきがあり、配慮はそれぞれ違うことを意識して、子どもたちを応援する者として一緒に頑張っていきたいと思いました。(幼稚園教諭)
- 子どもたちのメッセージを聞いて、こんなにも自分や他者を見つめることができていることを知り、発達障害だからという見方を改めなければと思いました。最後の「人間は不完全であるけれども助け合う存在である」という言葉が、大人・子ども・発達の仕方に関係なくそうだなと心に残っています。(小学校教諭)
- 一人一人の子どもが生きやすい空間を作るための支援を充実させていくことが集団のためにもなると思います。子どもが「安全だな」と思える場所、安心して頑張れる場所を作るための言葉かけや様々なスキルのヒントを得られました。まずは自分の見方を変える、言葉を変える、行動を変える教師でありたいと思います。(中学校教諭)
- 子どもを変えようとする前に、大人が変わる、環境を変えるという阿部先生の言葉がすごく心に残っています。そういう意識がないと一人一人を受け入れて味方になったり、一人一人のつまずきの理解や多様性について考えたりすることが難しく、よりよい支援につながらないということを改めて認識することができました。(支援員)

初任者研修 (幼小連携・小中連携)

老松幼稚園・乙島小学校にお世話になり、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携をテーマにした研修を実施しました。円滑な接続について考える貴重な学びの場となったようです。

(小学校受講者の感想から)



幼稚園と小学校は全く違うのではなく、思わずやってしまう、やりたくて仕方ないと思えるような働きかけを教師がしていくのは同じであることに気付きました。小学校でも一から教えるのではなく、幼稚園で学んできたことを生かして、その力を発展させていくことが小学校教諭の役割であると学びました。

幼稚園での「遊び」には、生きるために必要な想像力、忍耐力、思考力、協調性など多くのことを学ぶことができると初めて知りました。また、ただ遊べばよいのではなく、そこには教師の意図的な声掛けや場の工夫がたくさんあることを学びました。小学校でも、教師が何を学ばせたいかをしっかりもって指導することが大切であると感じました。

講義の中で、「子どもが『先生は楽しいことを教えてくれる』『先生に教えてもらうことができるようになる』と思うことが大事だ。」というお話にはっとさせられました。最近の授業が、知識を教えるだけのものになっていたと反省しました。場づくりなどを工夫して、子どもが学ぶ楽しさを味わえるような授業にしていきたいです。



(中学校受講者の感想から)

「教師の揺さぶりによって子どもの考えが深まる」というお話が印象的でした。子どもの考えを深めることで、意欲的に学ぼうとする姿勢が身に付くと思います。そのためには、乙島小学校の先生方のように声掛けの工夫をすることが、私の今後の課題です。

生徒たちがどんな発達段階、学びを経ているのかを知ることができました。小学校の授業では、発表者がみんなから認められ称賛される場面が多くあり、間違えても大丈夫という安心感がありました。こうした雰囲気や中学校につなげていくことが一つの小中連携になるのではないかと思います。

協議の中で、めあての提示の仕方が話題になりました。小学校ではめあてを提示する前に課題を出し、児童が疑問に感じたことをめあてにつなげていました。丁寧に段階を踏むことで、児童は「知りたい」「考えを伝えたい」と主体的に学ぼうとするのだと思います。小学校の指導を知ることで、中学校との違いや継続していくべきことが明確になったので、生かしていきたいです。

倉敷ふれあい教室の行事

倉敷ふれあい教室では例年、5教室合同で体験活動を行っています。教室の仲間と協力することの大切さややり遂げた喜びを感じることを目的としています。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「宿泊自然学習」と「ソフトバレーボール大会」を中止しました。そこで新たな取組として「オンライン交流会」を開催しました。室外行事や日々の生活の中でも、他教室の仲間や自分の教室の仲間との絆を再確認することができるよう工夫を重ねています。

ふれあいクラスマッチ



互いに離れた教室同士でも一体感をもつことができる合同行事として、毎月1つの課題に挑戦しています。「スローイングピンポン」や「サイコロ算数」、「漢字熟語しりとり」など、シンプルで緊張感のある課題を楽しみながら競い合っています。

ふれあいオンライン交流会



ZOOMで5教室をつなぎ、レクレーション部門では教室にあるのものを探してつなぐ「実物しりとり」とみんなで意見をそろえる「連想ゲーム」、スポーツ部門ではニュースポーツの「スローイングピンゴ」で楽しみました。新しい形でふれあい教室の交流の場をもつことができました。

ふれあい文化祭（参観・展示） （11～12月 各教室）

各教室とも特色のある催し物や作品の展示があり、どの子どもたちも活躍する姿が見られました。

倉敷



参観日として3日間開催しました。期間中、保護者の方や先生方とともに「折り紙ゴマ」を作って回転させたり、ニュースポーツ「スローイングピンゴ」で対決したりして盛り上がりました。干支の張り子などの展示もしました。

水島



ライフパーク倉敷大ホールを会場に、スライドでの活動紹介の後、「ダンス」の披露と「ミュージッククイズ」を全員参加で行いました。最後にアンサンブル（合奏）で楽器の演奏をしました。「てるてる坊主」などの作品も展示しました。

児島



参観日として2日間開催しました。期間中、スポーツ推進委員の方に御協力いただき、「クップ」「囲碁ボール」を保護者の方や先生方と楽しみました。コマ回しではいろいろな技を披露しました。ガラススタイルコースターなどの展示もしました。

玉島



スライドでの活動紹介の後、「ラジオ体操」、ニュースポーツの「カーリンコン」と「スローイングピンゴ」をしました。また、クラスマッチから「的当てドッチビー」「ペットボトルダーツ」の体験と、たくさんの内容で大いに楽しみました。折り紙や陶芸作品などの展示もしました。

真備



参観日として開催しました。「朝の会」や「スタディ」など、普段の様子を見ていただきました。また、「なかよし活動」では「スローイングピンゴ」を、チームのメンバーをいろいろと変えて、競いながら楽しみました。多肉テラリウムやランプシェードなどの展示もしました。

（児童生徒の感想から）

- ・人が多くてたいへんだったけど自分の仕事はがんばった。
- ・緊張したけど参加者も楽しそうで良い思い出になりました。

（保護者の感想から）

- ・ふれあい最後の文化祭で成長した姿が見えてよかったです。人前で話せなかった2年前を考えると・・・
- ・学校の先生も来てくださり感動しました。

（学校の感想から）

- ・それぞれに活躍の場があってありがたいです。

☆☆ 倉敷教室 ☆☆

☆ 恵まれた教育環境の中で
のびのびと・・・

倉敷ふれあい教室倉敷教室は、くらしきシティプラザ西ビルの8階にあります。窓からは倉敷市内が一望できます。倉敷駅に隣接しており、交通の便のととても良い場所です。

周辺には、倉敷みらい公園、倉敷美術館、自然史博物館、倉敷中央図書館、美観地区、北児童センターなど多くの文化施設や教育施設があり、恵まれた環境の中で様々な活動に取り組んでいます。

「なかよし活動」では折り紙や手芸などの創作活動、書道や英語（NET）などの学習活動、その他にも映画鑑賞や倉敷みらい公園でスポーツなども行っています。地域に出かける活動としては、倉敷中央図



[スポーツ (みらい公園)]



[書道]

書館での読書、美観地区や教室周辺の散策、阿知神社の年中行事への参加などがあります。また、ボランティア活動として地域のゴミ拾いも行っています。

「スタディ」の時間は机に向かい、それぞれ自分に合った学習内容に一生懸命取り組んでいます。

倉敷教室の今年度の目標である「はばたき」をキーワードに、一人一人苦手なことにも勇気をもってチャレンジし、次の活動へつなげていけるように頑張っています。「やってみたらできた」という達成感や「やればできるんだ」という自信がもてるよう、日々いろいろな活動に取り組んでいます。

☆☆ 玉島教室 ☆☆

☆ ゆったりとした雰囲気の中で
和気あいあいと・・・

倉敷ふれあい教室玉島教室の周辺には、良寛さんゆかりの円通寺や玉島港があり、自然に恵まれ、ゆったりした空間で、のびのびと過ごしています。

現在教室には、小学生1名と中学生9名の計10名が在籍していて、3名の指導員とアットホームな雰囲気の中で活動しています。

1日の活動としては、みんなと一緒に取り組む「なかよし活動」と一人一人の進度にあわせた「スタディ」があります。「なかよし活動」では、創作、スポーツ、さん太のさん考書、科学実験など様々な体験に取り組んでいます。

本年度も、朝の最初の活動に「ラジオ体操」を取り入れています。体をほぐした後は、一昨年10月から始まったふれあいクラスマッチをします。子どもたちと指導員が一つになって、行っています。自分の上達とともに周りの人たちと協力して頑張ることの喜びも味わうことができているようです。また、9月10日に行った「ふれあいオンライン交流会」は、みんなが楽しめる新しい取組として、今後も継続していきたいです。

笑顔あふれる教室をめざして、3学期以降も様々な活動に取り組んでいきます。



[ふれあいオンライン交流会]



[創作 (糸かけマンダラ)]



[科学実験 (空気砲)]